

せいけん
詩集

第七十七篇

作：近藤せいけん



「年末」

年の瀬 何となく あわただしい

日本人の 伝統習慣なのか

心が落ち着かない

街に ジングルベルが 流れ

ベートーヴェンの「第九」の合唱の

便りが届く

かたや 伝統の羽子板市 酉の市

各地で始まる

毎年 恒例となった

日本の世相

とにかく

今年もどうにか 一年が終わる

寒さが一段と厳しさを増してきた

外をゆく人も こころなしか

急ぎ足